

【主な出来事】

- 2～4日, クルツ・オーストリアOSCE議長国外相の来訪。
- 6～8日, ドン大統領のブラッセル訪問。

1. 内政

▼2日, 政府・議会共同セッション。

・フィリブ首相より2017年政府優先改革課題を紹介, EU連合協定実施が優先課題であるとした。カンドゥ議長からは, 議会のコントロールを通じて同協定の実施加速化に務める旨発言。

▼5日, 「尊厳と真実」党は第2回特別会合を開催。

・同党をモルドバの主要野党と位置づけ, 権威主義的政府との闘いを継続する方針を確認。2017年の同党の優先課題として, 犯罪スキームとの闘い, 欧州型改革の実施, 外国パートナーとの対話の強化, 選挙制度改革反対, 必要に応じた抗議運動の再開及び前倒し議会選挙を挙げた。

▼8日, 国防大臣人事に係るギンプ自由党党首発言。

・ムンチャヌ環境大臣の国防相就任の可能性はこれ以上追求しないが, 現時点で同党として別の候補はいないとした。

政府

▼NATOリエゾン事務所開設に係る動向。

・8日, 政府は同事務所が本年4月開設と発表。ドン大統領は反発し, 来年の議会選挙後には閉鎖されると述べた。

▼15日, 政府は, 解体された3銀行への緊急融資に係る政府保証の国債転換に関する法に関し, 右を無効にする大統領提出法案を拒否。

・ドン大統領は, 本件に関して議会の意見を待ったのち, 国民投票に訴える可能性に言及。

その他

▼8日, ウサウイ「我らの党」党首の大統領宛メッセージ。

・自分が先般の選挙でドンを支持したのは両者が基本的立場を共有していたからであるが, 大統領就任後のドンは政治的声明やNATOリエゾン事務所の問題などに明け暮れ, 深刻な問題に対処していないとして批判。

2. 外政

▼3～4日, クルツ奥OSCE議長国外相の来訪。

・ドン大統領, フィリブ首相, ガルブル外相らと会談。クルツ外相より, トランスニストリア問題の解決はOSCEの中心課題であり, モルドバの領土一体性と主権及びトランスニストリアの特別な地位に基づくものでなければならないと述べた。ベルリン議定書履行の重要性にも言及。

・トランスニストリアを訪問し, クラスノセルスキ「大統領」, イグナチェフ「外相」らと会談。

▼6～8日, ドン大統領のブラッセル訪問。

・トゥスク欧州理事会議長との会談におけるドン大統領発

言: 2014年の連合協定署名後, モルドバの状況は予想に反して悪化。次回議会選挙または国民投票により同協定の破棄が決定されれば, 自分は承認する。2009年に68%あったEU加盟支持率が昨年38%まで下落したのは, モルドバの劣悪な政府運営と, 地政学的文脈におけるEU側の二重の基準のため。EU側の支援には感謝するが, それが国民の生活向上に寄与しなかったことは遺憾。対露関係の再構築はモルドバにとって死活的に重要であり, 貿易に関するEUを含めた三者協議の開始が必要。

・その他, ユンカー欧州委員会委員長, モゲリーニ欧州委員, タヤーニ欧州議長らと会談。

・ゴッテモラーNATO事務次長と会談。ドン大統領より, NATOの害虫駆除剤廃棄支援に謝意を表明しつつ, キシニョフにおけるNATOリエゾン事務所の開設は「扇動的」決定であり, トランスニストリア問題の解決を阻害すると批判。

・民主党は, 大統領の今次発言はモルドバ政府の国家外交戦略及び与党連合の考えと異なるとして批判。

▼6～8日, ルプ元議長のブラッセル訪問。

・EURONEST 議員会議共同議長として。

▼7日～, カンドゥ議長の英国訪問。

・英議会議長, EBRD関係者らと会談。ダンカン外務副大臣とモルドバ・英自由貿易協定の締結の方針につき合意。

▼7～9日, アルマンソーリUAE経済大臣の来訪。

・モルドバ・UAEビジネスフォーラムに出席した他, フィリブ首相, カルムイク経済大臣と会談。

▼10日, ドン大統領のイラン訪問。

・ロウハーニー・イラン大統領と会談。エネルギー・農業分野協力や両国大使館の開設の可能性につき協議。

・世界女性チェス選手権開会式に出席。

▼13日, フィリブ首相のウクライナ訪問。

・グロイスマン首相と会談, 2011年以来中断中の政府間経済協力委員会の再開, 国境確定, 貿易, トランスニストリア問題, ウクライナによる6水力発電所の建設, ウクライナからの電力輸入再開等につき協議。2017年の二国間関係発展ロードマップに署名。ポロシェンコ大統領とも会談した。

▼13日, グレチャニ社会党党首はメドヴェージェフ露首相(統一ロシア党首)と会談(於:モスクワ)。

・近く両党間の協力メモランダムに署名することで合意。グレチャニ党首より, 社会党はユーラシア経済同盟加盟に賛成であり, ドン大統領のイニシアティブに賛成であるとした。

▼14日, ドン大統領のコメント。

・自分の訪露の結果、露消費者保護庁がモルドバの13ワイン業者に露市場へのアクセスを認める見通しである。またモルドバ移民の問題についても露内務省が2月末までに何らかの対応を行う予定。

・ブラッセル訪問ではEU関係者と誠実に協議し、もし人々がEU連合協定破棄を決定するならば、大統領たる自分はそれを支持すると伝えた。モルドバの外交的方向性については国民投票の対象とはならないだろう。

・3月末までに、大統領の議会解散権を認める憲法改正案を提案する予定。混合選挙制の導入は時期尚早。トランスニストリア問題は自分の任期中に解決の可能性。

3. 経済

▼1月31日～2月5日, Expo 'Made in Moldova' 開催(於:キシニョフ)。

・1月31日, モルドバ・ロシア・ビジネスフォーラム開催。ドドン大統領, カルムイク経済大臣らが出席。ドドン大統領は2014年以降対露貿易高が62%減少していることに遺憾の意を表明, EU・モルドバ連合協定を批判する一方, カルムイク経済大臣は同協定による消極的影響を否定。

・ベラルーシ, オーストリア等との間でもそれぞれビジネスフォーラムを開催。なおオーストリアはモルドバ第9位の投資国で, モルドバ国内のオーストリア系資本は96社。

▼9日, ポナリ川通信大臣がモルドバガス総裁に。

▼9日, フィリプ首相はガスプロム関係者と会談。

・首相より, 本年1月1日現在のモルドバガス債務のうち58億ドル(89%)はトランスニストリア向けガスであり, これを「ティアスポリトランスガス」を通じてトランスニストリア「政府」に移転すべく, 債務再編が必要であるとした。(上記を除くモルドバ本土の債務は7億ドルとされる。)

・ガスプロム側はモルドバ本土と「ト」の債務分割を拒否。

経済協力

▼EUの支援。

・モルドバ・ウクライナ国境地帯プロジェクト(330万ユーロ)。(1日報道)。

・ドナウ川地域協力プロジェクト(5百万ユーロ)。(7日)

・食品安全管理(2百万ユーロ)。(10日)

4. トランスニストリア

▼「経済省」発表(1月30日)

・2016年の外国貿易高は13.88億ドルで, 対前年比20%減。うち輸出は530.4百万ドル, 輸入は857.8百万ドル。輸出相手国はモルドバ, ウクライナ, ルーマニア, ロシア, イタリア, ドイツ。輸入相手国はロシア, ウクライナ, モルドバ, ドイツ, ベラルーシ。

・2016年のインフレ率は4.44%。

▼2日, 共同管理委員会は2017年の共同平和維持活動主要行動計画を採択。

・訓練, 法執行機関間協力等を含む。

▼2016年の「ト」インフレ率(3日)。

・4.44%。なお2015年はマイナス1.77%。

▼7日, 「1+1」会合実施。

・2017年において初めてのもので, バラン・モルドバ副首相及びイグナチェフ「ト」「外相」の間で実施。「ト」内の鉄道輸送問題等に係る協議のほか, 引き続きベルリン議定書の履行に努めることに合意。

5. その他の情勢

ガガウズ自治区

▼3日, 2014年レファレンダム3周年。

・ヴラフ・ガガウズ自治区長官は, ガガウズはモルドバの独立と中立を求めると共に, ロシアその他各国との友好協力関係が必要であると述べた。ドドン大統領も祝辞を发出。

(当館注: 同レファレンダムでは, 大多数の市民がEUよりロシアとの関係強化を志向し, モルドバがEUに加盟する場合はガガウズの独立を志向するとの結果となった。)

▼2016年のガガウズ対外関係(3日発表)。

・主要な外国パートナーはロシア, トルコ, CIS及びEU。

・ロシア関係では, ガガウズに拠点を置く66企業が果物・野菜, 9企業がアルコール類を輸出。同年のロシアの対ガガウズ支援は2.500万レイ。

・トルコは住居プロジェクト(500万レイ)や河川敷浄化プロジェクト(300万レイ)等を実施。ブラフ長官はエルドアン大統領と2回会談。

・EUは500万ユーロの支援を実施(地域開発, 市民発展, IT・インフラなど)。

6. 各種統計

▼独立ジャーナリズム・センター2016年報告(6日)

・同年のモルドバ・メディアの状況は危機的。メディア部門の法制には改善無し。マスメディアへの政治の関与の度合いは容認しがたいレベルに達している。メディアの財政的独立もない。ジャーナリストの安全やジャーナリズムの質についても深刻な問題に直面。

▼2016年国家予算収支(3日, 財務省)。

・歳出484億レイ, 歳入459億レイ, 歳入不足25億レイ。

・歳入内訳は以下の通り: 税収(63.6%), 社会健康保険料(28.9%), その他(4.5%), 無償資金協力(3%)。

・支出内訳は以下の通り: 社会保障(35.6%), 教育(17.7%), 保健(13.4%), 一般国家サービス(10.6%), 経済サービス(9.5%), 治安・国防(6.9%)。

・2016年の民営化収入は3.4億レイ。

▼シンクタンク「IDIS Viitorul」世論調査(6日)。

・国の方向性: 正しくない(61.6%), 正しい(19.5%)。

・先般の大統領選挙: 正しくない(48.5%), 正しい(39.2%)。

・最も信頼する政治家: ドドン大統領(26.6%), サンドゥ「行動と連帯」(PAS)党首(9.9%), ナスタツェ「尊厳と真実」(DA)党首(2.5%), フィリプ首相(2.1%), ウサトゥイ「我らの党」党首(0.7%), ヴォローニン共産党党首(0.5%)。

・最も信頼する政党: 社会(44%), PAS(26.4%), DA(15.3%), 我ら(13.4%), 共産(11.1%), 民主(7.1%), 欧州人民(6.2%), 自由(2.8%), 自由民主(2.7%), 「ショール」(2.3%)。

・支持しない政党: 自由(46%), 民主(43.8%), 共産(25.3%), 自由民主(20.5%), 欧州人民(18.4%), 社会(18.2%), ショ

ール(17. 9), PAS(17. 8), DA(17. 4), 我ら(15. 7)
・支持する体制: 大統領共和制(57), 議会共和制(21. 1)。
・モルドバは統一国家であるべき(53, 9), 2つの連邦構成
主体から成る国家であるべき(17. 9), モルドバとトランスニ
ストリアはそれぞれ独立すべき(10. 5), 複数の地方から成
る連邦国家であるべき(9. 8)。
・トランスニストリア紛争は平和裏に解決できる(72. 9)。

**▼NATOに関するモルドバ人の意識調査(10日, ギ
ャロツプ社)。**

・脅威である(27%), 安全を保証する(16), どちらでもない
(38)。

▼2016年のモルドバワイン輸出(15日報道)。

・瓶詰めワインの輸出は17%増で, 対中国向けが66%, ル
ーマニア向けが38%増加。輸出先は多い順から, ポーラン
ド, チェコ, ルーマニア, 中国, スロバキア, ラトビア, 米, 独,
リトアニア, 英。その他, 約3百万リットルのバルクワインがロ
シアに輸出された。

(了)